

手塚太郎金刺 光盛は諏訪大社下社の神官金刺氏大祝(おほほり=神職の最高位)の一族です。また、この時代婚姻により各家の結び付きを強固なものにするという観点から依田氏系統もひいており、上田市塩田の手塚郷の人です。遅くとも12世紀中頃には生をうけ、山梨県勝沼の三枝(さえぐさ)氏より妻を迎えています。

30年に渡り木曾義仲公を庇護支援しており、平氏打倒の戦「篠原の戦い」では、幼少期の義仲公の恩人でもある「齊藤實盛(さいとうさねもり)」とは知らずに討ち取ってしまいました(下写真)。平家物語の“實盛”の中で登場する光盛は、木曾義仲公最期に名前が登場するほど勇猛果敢な武将だったようです。寿永3年(1184)正月、近江粟津の戦いで、義仲とともに討死しています。

手塚太郎金刺 光盛が先祖と口伝のある上田地域の手塚氏は、神畑手塚家、手塚治郎左衛門(旧八木沢村)、須川手塚家、下本郷手塚家などがあり、手塚氏が残した子孫は日本各地に散っていったものと思われま。漫画家の手塚治虫氏もこの一族です。

木曾義仲公が討たれた後、手塚氏は手塚姓を「横林」(他、多数の別姓あり)などに替えながら、乱世を生き抜いてきました。



手塚の里に、手塚太郎金刺 光盛という侍がおりました。光盛は木曾義仲公の重臣で、りっぱな侍です。その光盛に「唐糸の前」という美しい娘があつて鎌倉に召されていきました。



寿永2年(今から凡そ830年前)の秋、源頼朝は京都に上がった木曾義仲のふるまいを怒り、これを討とうと図りました。

これを知った唐糸は、父の主君である義仲公に手紙を送りました。そこには「父光盛に信濃・越後の二国を賜れば、頼朝公を亡き者にします。木曾家に伝わる家宝の脇差を送って下さい」と書いてありました。しかし、この企ては失敗に終わり、唐糸は鎌倉山の石牢に入れられてしまいました。

手塚の里では60歳を超した祖母と、12歳になる万寿姫とで留守を守っていました。万寿姫は風の頼りに母唐糸が石牢に入っていることを聞き、鎌倉に至り八幡宮に祈願ののち頼朝の北の方に仕えました。

ある日、頼朝の祈願成就のために、舞“今様”の奉納が行われることになりました。舞姫の1人に加わった万寿姫は、その歌舞が見事なことで頼朝の目に留まり「今様の名手じゃ褒美を取らせよう」と言われましたが、万寿姫は褒美のかわりに「母の放免」を願い出ます。孝心に免じて唐糸は許され、信濃国手塚の里一万貫と、黄金、錦を賜り、五日後めでたく手塚の里に帰りました。(西塩田振興会・宝庫・西塩田の民話伝説参照)

独鈷山



手塚太郎の会代表 市村 徹  
〒386-1433 長野県上田手塚 952 ☎090-1433-1723  
2019年上田市わがまち魅力アップ応援事業

## 民話「鞍が淵とたつの子太郎」

昔、独鈷山(とっこざん)のいただきに寺があり若い僧がお経を始めると、毎夜どこからともなく美しい娘がお経を聞きに通ってきました。不思議に思った僧はある夜、娘の着物のすそに糸のついた針を刺しておきました。夜が明けてみると、糸は戸の節穴を抜け鞍が淵まで続いていました。

見ると太蛇が赤児を産もうと苦しんでいました。娘は鞍が淵の主、太蛇の化身でした。太蛇は産まれた児を鞍岩の上に置き死んでしまいました。この川は産川(さんがわ)と名づけられ、太蛇の遺骨は蛇骨石(じゃこついし)となって散らばり現在も探すことができます。

産まれた児は小泉村の老婆に育てられ、小泉の小太郎と名付けられました。小太郎が14、5歳になった頃老婆に「婆のため少しは手助けをしておくれ」と言われ、小太郎は小泉山に出かけたきき取りをしました。

一日で山にある限りの萩の木をこ抱えほどの束にして、夕方帰ってきました。そして老婆さんに「この結び縄を解かないで一本ずつ抜いて焚きな。山中の萩の木だから」と言いました。

老婆は「よしよし」と答えたが腹の中で「一日仕事で山中の萩の木なんぞ取れるものか。こんな小東にまとまるものか」と、小バカにして小太郎の留守に結び縄を解いてしまいました。

すると萩はたちまち、はぜくり返って家一杯に広がり、老婆は萩に押し潰されて死んでしまいました。それから小泉山には、萩の木が一本も生えていないといわれています。

また、小太郎の子孫は長らくこの地に住んでいるが、横腹にへビの“之けら”のあとがあるといわれています。



産川で見つかる「蛇骨石」



鞍が淵：大きな石が碑の様に見えるので、鞍が淵と呼ばれています

## 手塚太郎金刺 光盛と手塚太郎の会

手塚の郷に、水を守り稲作や神社仏閣などを振興し地域を栄えさせた「手塚太郎金刺 光盛」という武将がおり、この地を治めていました。

光盛がこの地にいた年代は生年不詳〜寿永3年(1184)で、居館跡など手塚地域に遺構が数多くあり、光盛が地域を大切に育み守っていた痕跡が残されています。

光盛は木曾義仲公の挙兵に伴い出兵し、近江粟津の戦いで義仲公と共に討ち死にしたと伝えられています。この地で領地開発をした金刺一族が手塚に住んだので、手塚の地名から手塚太郎金刺光盛になりました。

当会は、手塚太郎金刺光盛を掘り起こし、手塚地籍を学ぶ事や、手塚氏のルーツを掘り下げ、各地域との交流を図っていきます。また、地域の水源地である手塚地域の特性を紹介し、地元の活性化に寄与していきます。

- \*ウォーキングを兼ねた手塚地域探索
- \*講演会、勉強会の開催
- \*手塚氏に関わる他地域との交流
- \*民話の宝庫、塩田地籍の紹介
- \*水源地である手塚地域の紹介や勉強会
- \*各諸団体との交流



木曾義仲



樋口次郎兼光



手塚太郎金刺 光盛

# 手塚太郎金刺 光盛の里を学ぶ

光盛の里を学ぶウォーキングコースです。

- ①とっこ館前の駒形橋
- ②手塚氏の守り本尊 元木の地蔵
- ③小泉小太郎の生まれ故郷 鞍が淵
- ④流鏑馬の道・塩野神社前と中禅寺
- ⑤手塚太郎金刺 光盛の五輪供養塔
- ⑥光盛寺跡
- ⑦手塚太郎の居館跡と伝えられる大城、唐糸観音堂・唐糸草子
- ⑧安楽寺に保存されていた手塚太郎の子孫 手塚吉兵衛の位牌

## ① 手塚太郎金刺 光盛 駒形橋

信濃が生んだ猛将・朝日将軍「木曾義仲」が依田城で兵を上げてから、越後の国の城資長(じょうすけなが)を向うにまわして出陣のおり、光盛も海野・祢津・円子(まるこ)氏らと手兵数十騎でこれに加わりました。出陣の朝、家族乳母らと別れの杯を交わし手兵らと武運長久を祈りました。軍中に祈願したとき「めりめり」と音がして、石橋に「ひびく跡」が浮き出たではありませんか。「これは武運長久・幸運の兆しであろう」と大変喜びました。橋は四尺あまり(1.2m)幅3尺(1m)、明治初年には2か所に有りましたが、その後、手塚堰口(せんげぐち)三の堰に使われていたのが一つ残っているだけになり、現在は、とっこ館前の用水路に案内板とともに架け替えられました。

## ② 手塚氏の守り本尊 元木の地蔵

昔、弘法大師がこの塩田平の地を訪れた時、産川上流の元木の沢に有った柳の大木を見て「これは靈木である」として幹の根元の方で地蔵尊を彫ったという伝説があり、初めはその沢のほら穴に安置していました。延命地蔵菩薩で雨ごいにも大変ご利益があり、村民に厚く敬われていました。根元の方で彫ったから「元木(もとき)の地蔵」、木の末の方で彫られたので「末木(すえき)の薬師」として、末木の薬師は、現在中野地域に祀られています。その後光盛は、この元木の地蔵を手塚氏の守り本尊として手塚の堰口(せんげぐち)に応慈山光盛寺(おうじざんこうせい)を建て、岩山からこの寺に移しました。そして、光盛は木曾義仲公に従い京へ上がったのです。その後、守り本尊は東紺屋村のお堂に、明治2年には無量寺へ預けられ、現在はお堂ができ安置されています。元木の地蔵は1mほどの高さで、脇侍として制多迦童子(せいたかどうじ)と金羯羅童子(こんがらどうじ)を従えています。

## ③ 民話小泉小太郎の生まれ故郷 鞍が淵(くらがふち)

昔、独鈷山(とっこざん)の頂きに寺がありました。若い僧がお経を始めると、毎夜どこからともなく美しい娘がお経を聞きに通ってきました。不思議に思った僧はある夜、娘の着物のすそに糸のついた針を刺しておきました。夜が明けてみると、糸は戸の節穴を抜いて鞍が淵まで続いています。見ると大蛇が、赤児を産もうとして苦しんでいました。僧は驚いて寺に戻りました。娘は鞍が淵の主、大蛇の化身でした。大蛇は産まれた児を鞍が淵の上に置き、己の姿を恥じて三日後大雨を降らせ死んでしまいました。この川は産川(さんがわ)と名づけられ、大蛇の遺骨は蛇骨石(じゃこついし)となって散らばり、現在も探すことができます。



## 研修マップ



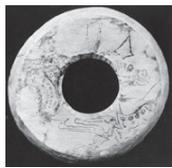
## ④ 流鏑馬(やぶさめ)の道・塩野神社前

現在の西前山公民館が建てられている場所は馬場(ばば)という地名で、昔は馬術の訓練をした場所と考えられます。塩野神社の参道は東西に一直線でも長さも200m余り、流鏑馬の道として適当で、その両端には馬返しの跡と考えられる地形も残っています。近くには藪挟(やぶさめ)・西馬場という地名などが残り、手塚氏創建ではと思われる式内社「塩野神社」境内には流鏑馬の出発点となる鳥居があります。光盛の兄弟に、建久4年(1193)・文治2年(1187)鶴岡放生会流鏑馬で妙技披露した盛澄(せい)がいます。塩野神社の鳥居が、西前山でなく手塚太郎光盛の住んでいた手塚に向かっていても、光盛が塩野神社を祀った事を意味していると思われる(手塚談)。先の倭式騎馬会会長(森頼氏)の現地視察の折のコメントは、「見事に保存されている流鏑馬の道は、日本的に見て非常に貴重で類が無い」とお話されておりました。



## 中禅寺・薬師堂(重文)薬師如来 台座の流鏑馬(やぶさめ)の絵について

国重要文化財の「中禅寺薬師堂」には、鎌倉時代初期の作とされる木造薬師如来像が鎮座しています。その台座である蓮華座は八弁の花を模った華盤というもので、花びらの形状に鎌倉時代の特徴をそなえています。そして裏側には何とも興味深い、馬に乗り弓を射る流鏑馬の姿が描かれているのです。上敷加子(うしきなご)という上部の円形の蓋天板の裏側に、蓮華座を作った仏師が描いたのでょうか。流鏑馬や鹿狩の様子をスケッチしたような墨絵です。まるで、落書きのような簡素な筆使いですが、その絵柄にも鎌倉時代の特徴が表れており、仏像の製作年代が推定されたのです。



## ⑤ 手塚太郎金刺 光盛 五輪供養塔

光盛の供養塔と伝えられる、立派な五輪塔です。高さ1.25m室町末期から鎌倉初期の作と考えられます。手塚の個人宅の庭に有ります。



## ⑥ 手塚氏菩提寺 光盛寺跡

現在の手塚太郎金刺光盛の菩提寺と伝えられる光盛寺(こうせい)跡です。「手塚村光盛寺地蔵堂略縁起 正保3年(1646)弘法大師御作の地蔵尊(雨乞え地蔵・元木の地蔵)を光盛が手塚村に講じ奉り、その家の本尊として恭敬し、光盛没後亡主追福のため堂舎を営み応慈山光盛寺(おうじざんこうせい)と号した」と記載が有ります。光盛寺は廃寺になり、現在はその跡に菩提樹が立っています。本尊は昭和55年(1980)、手塚自治会によって無量寺境内に造られた地蔵堂に安置されています。



## ⑦ 手塚氏居館跡、唐糸観音堂唐糸草子

唐糸草子は、親孝行のお話で有名です。光盛の娘の唐糸を供養したと伝えられます。(宝永3年差出帖に光盛守り本尊と)中には唐糸観音堂があり、唐糸観音像が祀られています。大城と呼ばれたここは、光盛の居館跡と伝えられています。この屋敷の中を通り、荘園時代の塩田平の殆どの流域に、産川の水を流したと考えられます。(中塩田、西塩田全地域)入口の門は、明治初年のチャラ金騒動で訴訟田の焼き討ちに会い、今でもその傷跡が残ります。昭和16年(1941)頃までは、堅固の門と敷地約1000坪東・西・南の三方の石垣土塙・門が残されていました。個人所有のため非公開です。



## ⑧ 安楽寺 手塚良仙光照が納めた手塚吉兵衛の位牌

安楽寺開山堂に安置された「手塚太郎金刺光盛の子孫」と伝えられる位牌に、「水戸 長侍医 手塚良仙光照」と書かれた厨子と古文書が判明、漫画家手塚治虫氏の家に残された古文書と一致しました。光盛の子孫で手塚村に住む手塚吉兵衛は、天正年間(1573-1593)田中城主「芦田右衛門信蕃(のぶひけ)」に仕え、その後幕府「先手与力」に、晩年は手塚村に戻って寛永15年(1638)に亡くなっています。この吉兵衛の三男盛行の6代後の「光照」が、娘婿・良斎に吉兵衛の位牌を探させた結果「別所安楽禅寺」で発見。光照は安政4年(1857)に位牌を拝み、厨子を新調しました。この一連事を、孫の大槻徳裕が銅板に記しています。(お参りできない場合があります)



制作：西塩田地区振興会「観光部」'07.03  
「上田市天然気象予報」助成事業